

東海道～山陽新幹線N700Sのバリアフリー設備のご案内
(2022年3月12日現在、2022年8月9日更新)
©作成・半沢一宣(はんざわ・かずのり)

N700SはN700系・N700Aのモデルチェンジ車で、2020年7月1日から営業運転を開始しました。走行機器構成を全面的に変更したほか、客室設備では車いすスペースを6台分に拡大、業務用特大荷物スペースの増設(車掌が管理し乗客は自由には利用できない区画)、授乳室の新設などの変更点があります。

車いす対応座席(次ページの配置図で「H」と表記)

1次車(注)では11号車の12・13番AB席(太平洋・瀬戸内海側)とDE席(富士山・玄界灘側)が車いすからの乗り移りに便利なよう肘掛けを跳ね上げることができる構造になっていて、AB席のみ車いす固定用の設備もあります。

2021年4月20日以降に営業運転を開始した2次車(注)では11～13番DE席と11番C席を廃止し、車いすスペースを6台分に拡大しています。この車両では11～13番AB席が1次車と同様の肘掛け跳ね上げ式の構造になっています。

(注:1次車=編成番号がJR東海のJ1～12編成とJR西日本のH1～2編成。

2次車=編成番号がJR東海のJ13編成以降、JR西日本では未就役)

上記のうち13番AB席は2022年3月12日以降、1ヶ月前の発売開始時から指定席券売機などで購入できるようになったため、健常者が先に購入してしまうと車いすの人やその同伴者が利用できない問題が発生しています。11・12番AB席は引き続き一般席とは別枠で管理され、健常者が購入できない措置が取られています。

多目的室(次ページの配置図で「M」と表記)

改良型ハンドル式電動車いすに対応した構造のものが、11号車の東京寄り(富士山・玄界灘側)にあります。

座席の枕を取り外し座面と背もたれを手前に引き出すと簡易ベッドになります。

ただしJRでは多目的室を車いすの人優先とする運用をしているため、車いすスペースを6台分に拡大した編成でも多目的室の利用を希望する車いすの人が乗車していると、急病人や病弱者が多目的室を利用できないという問題が発生する可能性があります。

車いす対応トイレ(次ページの配置図で「O」と表記)

11号車の東京寄りに、ベビーベッド(おむつ交換台)、ベビーチェア、オストメイト用設備などを併設した多機能トイレがあります。

またすべてのトイレには火災報知器が設置されており、トイレ内でライターを使ったり喫煙したりすると警報音が鳴るようになっています。

洗面所

11号車の東京寄り(多機能トイレの向かい)に車いす対応構造のものがありません。

公衆電話

12号車の博多寄りに車いす対応構造のものがありませんでしたが、2021年6月30日限りでサービスを終了しました。

2021年6月以降に営業運転を開始した編成(JR東海のJ16編成以降、JR西日本のH3編成以降)では当初から設置されていません。

飲料自動販売機

2020年7月1日の営業運転開始当初から設置されていません。

受動喫煙の発生状況

N700Sでは全席禁煙ですが、3・10・15号車の3ヶ所に喫煙ルームがあり、人

が出入りする際にたばこ煙が通路へ漏れ出すことによる受動喫煙が発生していることが、営業列車での粉じん濃度測定調査によって判明しています。

また上記3ヶ所の喫煙ルームのすべてで、向かいまたは並びに授乳室が設置されているため、乳児と母親が授乳室に出入りするタイミングと喫煙を終えた人が喫煙ルームから出てくるタイミングとが重なると、母子が受動喫煙を強要されてしまうことになります。更に喫煙ルームが存在することにより、喫煙を終えて自席へ戻ったばかりの人が肺の中に残っているたばこ煙を呼吸と共に吐き出すことになるため、これに起因する受動喫煙が、すべての席で発生する可能性があります。

乗車・調査の実施記録

丸数字は4ページ以降に掲載した写真を撮影した列車を示します。

2021年5月22日(土曜日)

東京6時57分発新大阪行き「こだま703号」(東京駅発車前に調査)

車両番号・11号車=746-702

(JR東海J2編成、2020年・日立製)

2021年5月22日(土曜日)

東京7時33分発新大阪行き「ひかり633号」(東京駅発車前に調査)

車両番号・11号車=746-711

(JR東海J11編成、2020年・日本車両製)

2021年6月1日(火曜日)

東京6時57分発新大阪行き「こだま703号」

(東京 京都間で9号車(グリーン車)に乗車)

車両番号・11号車=746-707

(JR東海J7編成、2020年・日本車両製)

2021年6月1日(火曜日)

新大阪20時45分発東京行き「ひかり668号」

(全区間を11号車9番E席に乗車)

車両番号・11号車=746-715

(JR東海J15編成、2021年・日本車両製)

2021年8月5日(木曜日)

東京6時57分発新大阪行き「こだま703号」(全区間で12号車に乗車)

車両番号・11号車=746-706

(JR東海J6編成、2020年・日立製)

2022年8月7日(日曜日)

広島8時6分発東京行き「のぞみ100号」(広島駅発車前に調査)

車両番号・12号車=745-616

(JR東海J16編成、2021年・日立製)

2022年8月8日(月曜日)

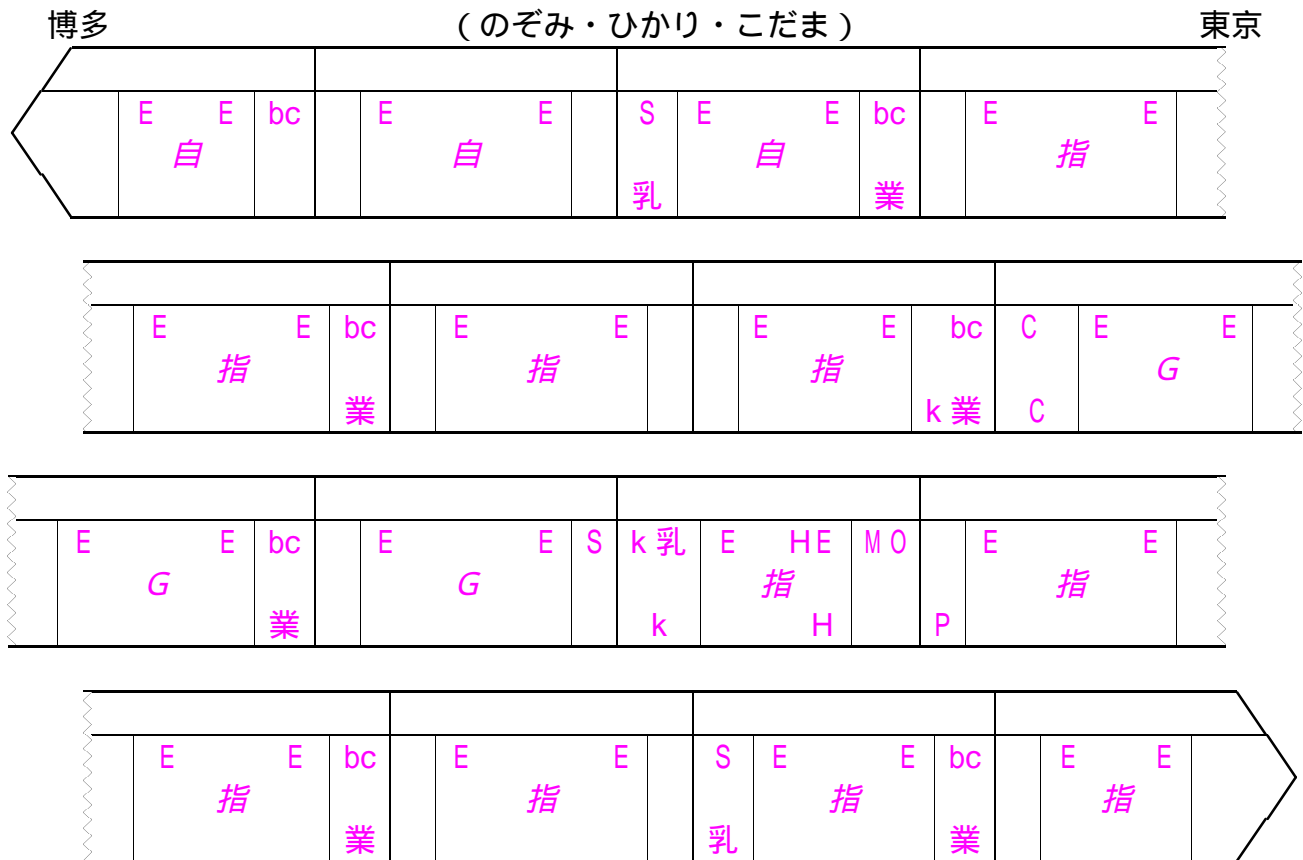
広島6時14分発東京行き「ひかり500号」

(全区間で9号車(グリーン車)に乗車)

車両番号・11号車=746-708

(JR東海J8編成、2020年・日本車両製)

N700Sの車内設備の配置図
 (指定席/自由席の区分は「のぞみ」の場合を示しました)



凡例

- 指 = 普通車指定席 自 = 普通車自由席 G = グリーン車
- H = 車いす対応座席 M = 多目的室
- O = 車いす・オストメイト対応トイレ (ベビーベッド・ベビーチェア付)
- b = 車いす非対応トイレ (ベビーベッド付)
- c = 車いす非対応トイレ (ベビーチェア付)
- C = 車掌室 k = 車内販売準備室
- = A E D (自動体外式除細動器) S = 喫煙ルーム
- E = インターホン機能付緊急通報装置 乳 = 授乳室
- 業 = 業務用特大荷物置場 (乗客が自由には利用できない区画)
- 斜字 = 受動喫煙 (三次喫煙を含む) が発生する可能性がある禁煙車



東海道～山陽新幹線N700S



N700Sの車体側面のロゴ



N700Sの1次車の車いす対応座席
太平洋側のA B席



N700Sの1次車の車いす対応座席
富士山側のD E席



N700Sの1次車の車いす対応座席の
車いす固定用ベルト
A B席のみ設置、D E席では省略



N700Sの2次車の車いすスペース
床に車いす6台分の区画を表示



N700Sの2次車の車いす対応座席
A B席の構造は1次車と同じ



N700Sの2次車の車いすスペース
荷棚部分の席番表示ではE席と表記



N700Sのバギー格納庫(左)
バギーとは車内専用の小型の車いすのこと
画面右が多目的室



N700Sの11号車の多目的室



N700Sの多目的室の案内掲示
授乳や体調不良時の休憩での利用は
車いすの人の利用が無い場合に限る旨が
記載されている



N700Sの11号車の多機能トイレ
右下の白い板は着替え台



N700Sの多機能トイレ内の
オストメイト用設備



N700Sの11号車の
車いす対応洗面所



N700Sの12号車の
車いす対応公衆電話(現存せず)



N700Sの12号車の公衆電話設置台
列車公衆電話の廃止が決まる前に
発注・製造されていた車両は
電話機を設置せずに就役した



N700Sの8号車のAED



N700Sの11号車の
非常停止ボタンと非常通話装置
画面右上の号車表示の下に非常停止ボタン
その下(広告の右)に非常通話装置
どちらも車いすでの利用は困難な高さ



N700Sの11号車の
非常停止ボタン



N700Sの11号車の
非常通話装置



N700Sの11号車の授乳室
N700系とN700Aでは
飲料自動販売機を設置していた場所
奥の10号車(グリーン車)の入口右手前に
喫煙ルームがあるため
ここから人が出てくるとき
一緒に漏れ出る煙や
喫煙直後の人が吐き出す息などで
乳児が受動喫煙に晒されるおそれがある



N700Sの11号車の授乳室の
案内掲示
下の写真で示す3号車と15号車でも
同じ文面の案内がある



N700Sの3号車の
喫煙ルーム(左)と授乳室(右)の位置関係
授乳室はN700系とN700Aでは
喫煙ルームだった場所
(右の写真の15号車でも同様)



N700Sの15号車の
喫煙ルーム(左)と授乳室(右)の位置関係
人が出入りする際に漏れ出てくる煙や
喫煙直後の人が吐き出す息などで
乳児が受動喫煙に晒される問題への配慮が
欠落した設計となっている